

順位	氏名（議席）	発言の要旨
11	杉山 幸宏（2）	1. 超高齢社会における悠容クラブの存続と、行政のリーダーシップによる支援強化について 富士市悠容クラブは、長年にわたり、本市の高齢者福祉、地域福祉を支えてきた大切な存在です。その活動は、単に高齢者が集まって楽しむだけのものではありません。こどもたちの登下校の見守り、環境美化活動、健康づくり、地域での交流、そして、引きこもりがちになった高齢者に外出や人とのつながりの機会を提供するなど、まさに地域社会への参加を促す活動を行ってきました。 こうした活動は、高齢者の孤立を防ぎ、生きがいをつくり、健康寿命の延伸にもつながるものです。そして、これは本市が進めている予防福祉や健康寿命の延伸、地域交流、社会参加、住民主体の地域づくりという政策と、極めて親和性の高い取組と考えます。 悠容クラブを取り巻く状況は、非常に厳しくなっています。平成13年度には1万2729人いた会員が、令和8年度には1835人となり、実に約85%減少しています。また、令和3年度から令和7年度にかけて、クラブ数は84クラブから56クラブへ、短い期間で34%減少しています。 その一方で、60歳以上人口は増加しています。つまり、高齢者が減っているから悠容クラブが衰退している訳ではありません。高齢者が増えているにもかかわらず、従来型の高齢者組織への参加が減少しているという、構造的な問題が起きているのではないのでしょうか。 そして、現場から最も多く聞かれるのが、会長や役員の成り手がないという問題です。参加したい人がいても、会計や書類作成、行事の調整、対外的な対応など、役員の負担が大きく、そのためにクラブそのものを解散せざるを得ない。これは、個々のクラブの努力だけでは解決できない段階に来ていると考えます。 老人福祉法第13条第2項には、地方公共団体は老人クラブに対し、適当な援助をするよう努めなければならないと規定されています。また、本市のふじパワフル85計画においても、悠容クラブは、高齢者の健康づくり、生きがいづくり、社会参加、地域交流を支える重要な活動として位置づけられています。 さらに、本年度パブリック・コメントを実施した第六次富士市総合計画後期基本計画（案）においても、ふれあい・いきいきサロンや悠容クラブの活動を、高齢者が住み慣れた地域で交流する機会として位置づけ、住民主体の活動を支援するとしています。 本年5月には、福祉総務課と悠容クラブ連合会連名で各地区まちづくり協議会に対し、「活動活性化等への協力をお願い」という文書が出され、その後、富士市まちづくり協議会連合会・富士市町内会連合会、富士市議会福祉保健委員会委員と懇談会を行い、最も強く共通して浮き彫りになった課題は、会長や役員の成り手不足です。活動意欲のある高齢者がいても、会長が見つからないという組織運営上の理由だけで、クラブの解散や退会を余儀なくされている実情があります。また、現在の悠容クラブをどう維持するかという段階から、ふれあい・いきいきサロンや地域独自の活動を含め、富士市の高齢者活動をこれからどう再構築するのかという、より大きなテーマへと発展しています。そのためには、行政が全体の状況を把握し、関係団体をつなぎ、今後の高齢者活動の在り方を検討するという、強いリーダーシップが求めら

順位	氏名（議席）	発言の要旨
11	杉山 幸宏（2）	れています。そこで、今後の本市の高齢者活動の展望について、以下4点伺います。 (1) 市内における悠容クラブの現状認識と課題について (2) 第3次まちづくり行動計画における高齢者支援の位置づけと部局横断的連携について (3) 役員の負担軽減に向けた行政主導の具体的支援策について (4) 時代に即した新たな悠容クラブ像の再構築と加入促進について